

テーマ
翻訳を通して中国理解を広げよう
目標
学習レベル 3～4
中国語で書かれた文章や記事を日本語に翻訳し、日本における中国理解を深めることができる。
コミュニケーション能力指標
<p>【話題分野】 地域社会と世界、行事、人とのつきあい ほか。</p> <p><u>地域社会と世界 3-b</u> : 都市や町について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p><u>地域社会と世界 3-e</u> : 日本や中国の政治制度・地理・歴史・風俗習慣などについて書かれた文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p><u>地域社会と世界 3-f</u> : 現代や歴史上の著名な人物についての文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p><u>行事 3-d</u> : 相手の国の行事（年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼など）の過ごし方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p><u>人とのつきあい 3-d</u> : 相手の国の家庭や学校で守らなければいけないマナーやルールについて書かれた文章を、読んで理解できる。</p> <p><u>人とのつきあい 3-f</u> : 日本と相手の国の人びとの好みや日常の習慣・つきあい方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p>＝その他の話題分野のレベル3～4で挙げられている文章も対象となる＝＝＝＝＝＝＝＝＝</p> <p><u>自分と身近な人びと 3-f/4-c</u> : 家族について書かれた文章／4-b : ライフストーリーや手記</p> <p><u>学校生活 4-c /4-d</u> : 相手の国の高校（大学）生活の特徴や教育制度/受験について</p> <p><u>日常生活 4-c</u> : いろいろな人のライフスタイルについての記事や番組</p> <p><u>食 4-a/4-b</u> : 地域・季節・民族などによって多様な料理に関する資料／現代の若者の食生活</p> <p><u>衣とファッション 4-c</u> : 相手の国の伝統服や民族衣装</p> <p><u>住まい 3-f/4-e</u> : 相手の国の多様な住居（形態や住み方など）／住宅問題に関する記事</p> <p><u>からだと健康 3-f/4-a</u> : 好きな人や有名人が行なっている健康法や体力づくり／健康や保健に関する文章</p> <p><u>趣味と遊び 3-e/4-c /4-e</u> : 遊びやゲームのルールなどの説明書／余暇の過ごし方／労働と余暇</p> <p><u>買い物 4-d</u> : 若者の消費行動についての新聞や雑誌の記事</p> <p><u>交通と旅行 3-b/4-d</u> : 観光地の説明文やガイドブック／交通システムについて書かれた文章</p> <p><u>人とのつきあい 4-a /4-b</u> : 通信手段（インターネット、携帯電話など）／宅配・郵便事業</p> <p><u>自然環境 3-a /3-c/4-a</u> : 自然現象・自然災害／気候変動や環境問題</p> <p><u>ことば 3-c /3-d</u> : 学んでいる言語の特徴／文字の成り立ちや特徴を書いた文章</p> <p>*この単元では、上記各指標後半にある「読んだ上での感想・意見交換」は日本語でおこなうことを想定している。</p>

## 学習シナリオ

### <場面状況>

神田外語大学中国語専攻3,4年「中国語翻訳法Ⅱ」クラス(3,4年次の選択必修科目で例年25人前後が履修)では、中国語で書かれた様々な文章を日本語に翻訳し、家族や友人等身近な人にその翻訳作品を読んでもらうことを通して、中国理解を深めたい【=単元目標】と考えた。

近年、日本を訪れる中国人観光客が増加し、日本国内で中国語話者と接する機会が日増しに増えている。街中の外国語表記や行政レベルの対応も重要だが、中国に偏見を持っていたり、あるいは無関心なために誤解をしている人に対して、その偏見や誤解を解くための第一歩として翻訳作品を作り、学習者がまずは自分の身近な人に(自分への理解も兼ねて)読んでもらうことにした。「多言語多文化共生社会」の実現に向けて、中国語学習を通じた市民性形成、21世紀型スキルの養成をも視野に入れたプロジェクト型学習である。2015年度より毎年、後期の後半8回前後を使っておこなうことを教員が提案し、学習者の賛同を得て進めている。

### <活動の流れ>

- 1) **日本における中国理解の現状把握** まず3,4人でグループを作る。周囲の日本人に、中国に関するイメージや知っていることをたずねたり(アンケート調査してもよい)、日本の新聞や雑誌等どのような報道がされているか調べたりして、クラスで発表する。
- 2) **翻訳の素材選び** 【単元目標】を達成するためにどんな素材を翻訳したらよいかグループで話し合う。これまで日本ではあまり知られていないこと、日本人にぜひ知ってもらいたいことは何なのか、また自分たちが翻訳したいジャンルなど好みも考慮して素材を集め、グループで選定する。翻訳作品をどのような形で誰に紹介するかも考えながら決める[例:近所の小学校へ贈呈、大学内の掲示板やMULC(多言語コミュニケーションセンター)で展示等] \*記事の出所に注意し、出典を明らかにする(原文のコピーを必ずとっておく)。
- 3) **個人で翻訳作業** グループで選んだ文章や記事を各自、次回の授業までに翻訳してくる。
- 4) **グループで翻訳修正作業** 翻訳文を持ち寄り、紹介する場と読者に合わせてグループで翻訳文を整える。翻訳を通して伝えたいことは何なのか、グループでよく話し合い、文体や体裁、どんな見出しをつけるか等を考える。フォントやサイズ等、レイアウトも揃える。
- 5) **クラス内で発表** 各グループが作成した翻訳文と、その発表形態・場所の案をクラスで発表し、他のグループに助言を求める。また教師にも提出し、翻訳チェックを受ける。
- 6) **翻訳作品制作** クラス内発表会で得たコメントを反映し、翻訳の精度を高め作品に仕上げる。また、自分たちが発表したい場所に掲示等が可能かどうか交渉する。
- 7) **翻訳作品の掲示/配布** できあがった翻訳作品を掲示/配布する。あわせて口頭で説明する機会もできるだけ作る。
- 8) **感想を集め目標達成度を確認** 翻訳作品についての感想をアンケートやインタビューで集め、クラスで発表し、【単元目標】を達成できたかどうか、クラスでディスカッションする。
- 9) **クラスでのふりかえり、まとめ** クラスで「翻訳作品集」としてまとめ、次年度の履修者の参考資料とする。「翻訳」とは何か、活動を通して感じたこと、学んだことをディスカッションする。

### 総括的評価

- 【単元目標】を理解して素材選びをし、発表する場所や読者に合わせた適切な翻訳作品ができたかどうかをルーブリックで評価する。（教師の評価／学習者相互評価）
- 翻訳作品についての読者の感想（アンケートやインタビュー）から【単元目標】の達成度をグループで自己評価する。あわせて各自の取り組み姿勢や協力度なども自己評価する。

### 3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>扱う原文テキストのジャンルならでの語彙や表現がわかる。</li> <li>文章語特有の語彙や表現がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の新聞や雑誌、教科書等で中国についてどのように報道されているか、中国の文化や習慣はどのような媒体で日本にどう紹介されているかがわかる。</li> <li>日本の文化や習慣との違い、関係性がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本において中国に関するどのような情報が不足しているかがわかる。</li> <li>学習言語を使ってどのように社会貢献できるかを考え（ここでは日本における中国理解）、行動することの意義を認識する。</li> </ul>
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国語で書かれた新聞や雑誌、WEB記事などを正確に日本語に翻訳できる。</li> <li>TPO に合わせた文体で翻訳することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本との共通性や相違性を分析した上で、必要な情報をわかりやすく翻訳できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やインターネット等を用い、必要な情報の収集ができる。</li> <li>集めた情報/文章を分析し、情報の出所に注意して信用できるものを選定できる。</li> <li>自分たちの翻訳作品を公開する場所/方法を考え、関係機関と交渉し、許可を得ることができる。</li> <li>責任をもって自分の役割を果たし、グループで意見交換し協力して1つの作品にまとめることができる。</li> </ul>
つながる		<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の文化や中国人のものの考え方などを身近な人々に伝え、中国理解を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国語を学習していない、あるいは中国に関心のない人たちにも、日本語で積極的に中国理解を広げ、深めることができる。</li> </ul>
三連携	<p>連携1（関心・意欲・態度）：自分の興味・関心に基づいて、単元目標達成のために適切な翻訳素材を選ぶ。</p> <p>連携2（既習内容・他教科）：前半に学んだ「翻訳のテクニック」を駆使し、翻訳のスキルアップを図るとともに、幅広い分野から翻訳素材を集める。</p> <p>連携3（教室外の人・もの・情報）：中国への興味・関心の有無を問わず、様々な場所でいろいろな世代の中国理解を深める。</p>		

テーマ：“もっと知ってくだチャイナ”：翻訳を通して中国理解を広げよう！

指示文：日本における中国理解を広げ、深めるために、中国語で書かれた新聞記事や雑誌・書籍・WEB上の文章を日本語に翻訳し紹介しましょう。  
①どんな素材を取り上げるか②誰に対してどのような方法で翻訳作品を発表するか、グループでよく話し合って決めてください。できあがった作品と一連の活動を以下のループリックで評価しますので、評価基準の「目標を達成」の欄をよく読み、それに留意しながら作成を進めてください。

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
翻訳素材 の選定	単元目標に沿って、自分たちや読者の好みやニーズも考慮しながら、適切な素材を選定している。	中国理解を深める、という単元目標に沿って、適切な素材を選定している。	単元目標を意識しているものの、自分たちの好みや素材の入手しやすさを中心に選んでいる。	単元目標を意識せず、自分たちの好みや素材の入手しやすさだけで安易に選んでいる。
翻訳の正確さ ×2	原文の中国語を正確に読み取った上で、自然な日本語で読者や発表の場にあった翻訳作品に仕上げている。	原文の中国語を正確に読み取った上で、わかりやすい日本語に翻訳できている。	原文の中国語をほぼ逐語訳しており、日本語として不自然なところがある。	原文の中国語を正確に読み取れていないところがあり、かつ日本語として不自然なところも多い。
翻訳作品 の構成 ・正書法	イラストや見出しを効果的に用い、伝えたい内容を的確にまとめている。誤字・脱字もない。	伝えたい内容をわかりやすくまとめている。誤字・脱字もほぼない。	原文をほぼ逐語訳しただけで、読者を意識した翻訳作品としての工夫にかける。誤字・脱字も若干みられる。	原文をそのまま逐語訳しただけで、読者を意識した翻訳作品になっていない。誤字・脱字も目立つ。
グループでの 協力度	グループの成員一人ひとりが自分の責任を全うしつつ、十分に意見交換したり助け合って制作している。	グループの成員一人ひとりが自分の責任を全うし、意見交換しながら協力して制作している。	一人ひとりが自分の責任を果たすことに精いっぱい、力を合わせて1つのものを作り上げる意識がやや薄い。	積極的にコミュニケーションをとらず、協力して1つのものを作り上げる意識に欠ける。
コメント				
総合得点	/20点（提出締切をすぎたら5点減点）			

テーマ：翻訳を通して中国理解を広げよう

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
中国に関する意識調査を読む	日本における中国理解についての現状を把握できる	現状を認識し、情報を分析した上で、翻訳素材を選ぶことができる	日本における中国理解を広げる
周囲の日本人にアンケートやインタビューをする			
集めた情報や記事が信用できるものか情報源を確認し、内容分析する			
【形成的評価】 ワークシートへの記入・提出(教員チェック)			
中国の新聞・雑誌・書籍・Web等で翻訳素材を集める	目標達成のために適切な翻訳素材を選定することができる		
集めた素材が信用できるものか情報源を確認し、現状の不足を補えるものか検討する			
社会のニーズや自分たちの興味・関心も考慮し、翻訳を発表する場も考え素材を選定する			
【形成的評価】 ワークシートへの記入・提出(教員チェック)			
原文の中国語を文の構造に注意して正確に読み取る	原文の意図を尊重し、正確で自然な日本語に翻訳できる	読者や発表形態も考慮した正確で適切な翻訳ができる	
そのジャンルに特有の表現・語彙や标点符号に注意して読む			
書かれた時期や社会背景、発表媒体に注意して読み、翻訳する	原文の記事や文章が伝えようとしているメッセージを考えて翻訳できる		
著者の思いや記事の要点などを考えながら読み、翻訳する			
適切な文体やフォントを用いる	読み手や発表の場も考慮し、翻訳作品として仕上げるることができる		
適切な見出しをつける			
文字量や文字サイズ、色を調整し、翻訳作品としてまとめる			
【形成的評価】 教員による翻訳チェック			
【総括的評価】 クラス内発表会(学習者相互評価、教師の評価…ともにルーブリックを用いる)			
翻訳作品を掲示/配布し、感想を集める	この活動の意義を伝え、許可を求めて掲示/配布し、感想を集め、クラスで目標達成度を測ることができる	翻訳作品を発表する場を考え、許可を求め、発表することができる	
その結果を、図表を用い、グループでプレゼンファイルにまとめる			
クラスにフィードバックし、クラス全体の目標達成度を確認する			
【総括的評価】 翻訳作品読者アンケートから【単元目標】の達成度をグループで自己評価し、クラスで報告する。各自の取り組み姿勢や協力度などもルーブリックで自己評価する。			